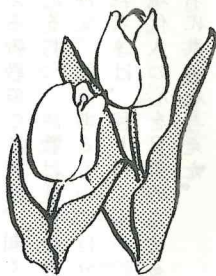


仙台司教区

教区事務所だより



(第 54 号)
昭和57年4月1日

ほんとうにキリストは復活した!!

また新しい信仰生活をはじめよう

ご復活祭おめでとう。聖パウロはコリントの教会に送った手紙の中で、「キリストが復活しなかったとしたら、わたしたちの宣教は無意味なものであり、あなたがたの信仰も無意味となるでしょう」と述べている。キリストによる救いを信ずるわたしたちには、キリストの復活こそ信仰の根源といえる。ご復活祭が教会最大の祝日であることも、典礼暦のご復活祭を中心にしてつくられていることもみなこの理由からである。わたしたちはまた、復活祭典礼の頂点である復活徹夜祭で、洗礼のときの約束を荘厳に更新した。そして罪のわざを捨て、キリストの福音にしたがった新しい信仰生活を誓った。毎年くりかえしご復活祭を祝う意味の重大さは、ここにあるといえるだろう。

ご復活祭おめでとう。聖パウロはコリントの教会に送った手紙の中で、「キリストが復活しなかったとしたら、わたしたちの宣教は無意味なものであり、あなたがたの信仰も無意味となるでしょう」と述べている。キリストによる救いを信ずるわたしたちには、キリストの復活こそ信仰の根源といえる。ご復活祭が教会最大の祝日であることも、典礼暦のご復活祭を中心にしてつくられていることもみなこの理由からである。わたしたちはまた、復活祭典礼の頂点である復活徹夜祭で、洗礼のときの約束を荘厳に更新した。そして罪のわざを捨て、キリストの福音にしたがった新しい信仰生活を誓った。毎年くりかえしご復活祭を祝う意味の重大さは、ここにあるといえるだろう。

わたしたちの信仰生活はまた、実践的、行動的であることがのぞまれている。ひとり祈ったり黙想したりするだけにとどまらず、自分の信仰を行いで証しするのである。しかもひとりではなく、信仰をもつもの同士が力を合わせて福音の実践に励むことは、主がもつともよろこばれることもある。

まず、名前だけのカトリック信者であることを返上しよう。そしてわたしが、キリストや教皇と結ばれている神秘体（信仰共同体）の一員であることの自覚と認識を深めるようにしよう。自覚が深まればおのずから福音の実践が生まれるものである。

司教の日程

(3月5日現在)



- 4月2日 ドミニコ会女子修道会管区会議 (東京)
- 5日 教区司祭団役員会
- 7日 聖香油ミサ(元寺小路教会) 午後 二・〇〇
- 8日 聖木曜日 (同) 六・〇〇
- 9日 聖金曜日 (同) 六・三〇
- 10日 復活徹夜祭(同) 七・〇〇
- 11日 復活主日(同)午前 九・三〇
- 12月14日 男子管区長協議会(東京)
- 18日 四ツ家教会堅信式
- 20日 ウルストラ家政専門学校新築落成式
- 21日 中央協・財務委員会(東京)
- 22月23日 神学校常任委員会(東京)
- 26日 教区司祭団月例会

◎友への愛

四旬節「愛の募金」をお忘れなく!!

四旬節愛の運動は、私たち信者が具体的に四旬節の精神を実行すること。愛の行いは、祈り、ぎせい、献金で実を結ぶ。日本の教会(カリタス・ジャパン)昭和57年度の募金目標は八千万円。国内は心身障害者援助団体や施設の援助、老人福祉対策援助、日本在住インドシナ難民対策援助。国外はアフリカ難民援助、ポーランド緊急援助。教皇はことしの四旬節メッセージとして、「あなたの隣人は誰か?」を発表した。いま私たちの助けを必要としている人が私たちの隣人。金額の多少にかかわらず「愛の募金」に参加しよう。

◎4月7日

教区神学生 任命式



カテドラルでの午後2時からの聖香油ミサの式中に、教区神学生の任命式が行われる。板垣勤(神学三年)、川村英成(神学三年)は教会奉仕者に。佐藤修(神学一年)は宣教奉仕者に。期待をこめて祈ろう。

◎中国教会のために

祈ろう!!



教皇は3月21日、全世界の教会で中国の教会のために祈るようぞまれた。とくに日本は同じアジアの隣国として、共産政府の弾圧で苦しんでいる中国の司祭、信徒のために祈らなければならない。

◎軍縮署名運動を推進しよう

司教会議の決議による軍縮署名運動が各教会ですすめられているが、いつその協力がのぞまれる。なお6月6日は日本カトリック教会の、「平和のため、国連軍縮特別総会のよき成果を祈る日」。お忘れなく。

「おおくもいさぎよし。」

先人の遺徳をしのび

広瀬川殉教祭



徳川幕府のキリシタン弾圧政策で仙台藩の手によって処刑されたポルトガル人宣教師・福者カルワリオ神父と信徒八人の遺徳をしのぶ「仙台広瀬川殉教祭」が、去る2月28日、仙塩地区教会代表者合同会議(新村信雄議長)の主催で行われた。

今年には仙台・塩釜両市八教会から約百二十人が参加。横断幕をかざした子ども達を先頭にバトカーの先導を受けながら、ロザリオの祈りと殉教賛歌を交互に歌いながら行進した。この行事は、すでに仙台市の名物にもなっていて道行く人々も興味深げに見送っていた。殉教碑前でのみことばの祭儀は、待ち受けていた信徒ら百人も加わり開式。壮烈な殉教の模様を伝える殉教録の朗読は、聞くたびにどとに人々の心を打つ。説教は北仙台教会主任のブテット神父。価値あるものに自分の生命をかけた殉教者達は、移り行くものに心を奪われやすい現代人の心を目覚めさせるものと説き、参加者に共感を与えた。

平和をねがう市民の集い

教会も積極的に参加 八盛岡V

去る2月10日夜、盛岡市の善隣館ホールで、「平和と民主主義を希求する市民の集い」が開かれた。この集いは、ペトレム外国宣教会のA・ツィゲル神父を代表とする市民の集い実行委員会が主催した。盛岡市内の宗教人、学者、作家、画家などが市民に呼びかけて、思想や信条を越えて平和の問題を真剣に話し合おうとしたもの。

午後7時からはじまった集いでは、教科書問題や靖国神社問題なども取り上げられ、強くアピールがなされた。カトリックからは、「社会の中の信徒グループ」を代表して志家教会の伊藤宏子さんが、教皇ヨハネ・パウロ二世の平和アピールを中心に、平和のために働くことの重要さを訴えた。集いの参加者は若い人たちが占められ、この運動の今後の動きが注目される。

◎仙台教区司祭異動(4月1日付)

- ▽ 一関教会主任司祭・兼千厩教会主任司祭 鷹野達衛(塩釜教会主任司祭)
- ▽ 塩釜教会主任司祭兼任土井文雄(元寺小路教会主任司祭)
- ▽ 塩釜教会助任司祭兼任笹気直哉(元寺小路教会助任司祭)
- ▽ 東京出向・東京カトリック神学院、佐藤守也(一関教会主任司祭兼千厩教会主任司祭)

盛岡のドミニカン

四国にも修道院を

II 聖マリア修道院落成 II

昭和49年に盛岡市上田のドミニコ会（観想修道女会）ロザリオ修道院から七人の修道女が高松教区に派遣され、香川県大内町二本松教会内に聖マリア修道院を仮設、祈りの生活を行っていたが、このほど十年目にしてようやく待望の修道院が高松市香南町西庄一六七〇―一三に完成。2月11日落成祝別式を行ったが、高松教区長深堀敏司教と共に、仙台から佐藤千敬司教も出席した。

同修道院は、高松教区の前教区長田中英吉司教が四国にも観想修道会をという希望から招かれ、仮り住まいの中でクッキー作りなどにはげみながら資金作りに奮闘、修道院建設に至ったものである。

完成した修道院は、き畑に囲まれた閑静な場所であり、鉄筋コンクリート一部二階建て延べ面積四百九十五平方メートル、総工費一億三千万円。聖堂を中心に研修室、面会室、集會室、作業室、個室などがあり、祈りの家にふさわしいもの。

落成式には前記二司教のほか二十数人の司祭方が参列、共同司式による感謝のミサを行った。四国各地の教会関係者や地元の人達も多数かけつけ、約二百人以上もの人々の歌声が聖堂一杯に響きわたり、落成の喜びを共に祝った。これまでの多くの方々の物心共なる援助を、関係者一同感謝している。

わっ、すてきな学校

桜の聖母学院小学校落成



八福島V

福島市のコングレガシオン・ド・ノートルダム経営の桜の聖母学院小学校（笠原節子校長、児童数三百二十七人）の校舎落成式が、2月20日午前10時30分から同校講堂で行われた。

式には河東田福島市長、仙台教区長佐藤千敬司教はじめ多数の来賓そして父兄、教職員および四年生以上の児童が出席。聖歌斉唱、聖書朗読の後、エリザベット・シュラツツ理事長が、「皆さんのお力添えのおかげで立派な校舎が完成しました。この学舎で学ぶ子供達が社会に役立つ人間に育つよう願っています」と挨拶。続いて来賓の祝辞、工事関係者への感謝状贈呈等があり、校舎落成を祝った。

桜の聖母学院小学校は昭和21年9月創立、福島市内の唯一のカトリック校として福音宣教の一端を担っている。新校舎は鉄筋コンクリート三階建て延べ面積三千七百九十四平方メートル、総工費四億三千万円。昨年4月から工事が進められ12月完成。2月20日落成式を行なった。一見お城のような雰囲気、光によつて色が変わる壁面タイル、スマートな十字架の塔、木材を豊富に使った暖か味のあるゆつたりした教室や廊下、宗教室の美しいス

「聖地献金」をお忘れなく！
 聖金曜日（4月9日）の献金は、聖地イスラエルの教会のために送られます。

テンドグラスなど、カトリック教育の理念を盛り込もうとの教職員の意欲がうかがわれる。

より新しくなる運動を始めて十年

Y A U 会津文化センター

（会津若松）

より新しくなる運動（Y A U）をめざして創立されたY A U 会津文化センター（和泉邦安神父）は、12月13日創立十周年を祝い記念行事を行なった。

文化センターは十年前、グアダルベ会のエストラダ神父によつて創立、地域社会に真の文化を根づかせ、より新しい人間になろうとの呼びかけで始まった。現在、英会話、ギター、書道、茶道、生花の教養コースと、だれでも自由に会費なしで入れるテニス、スキー、聖書のクラブがあり、約百五十人の青年男女が共に学び活動しながら、より新しい人間になろうと努めている。この十年間に洗礼を受けた人も多く、会員同士の結婚もあり、O B となつても家族ぐるみの交友を続け、文字通り新しい社会を作るバネ種となっている。

なお十周年記念行事の講演会では、会津短大の品川満紀教授が、「アメリカにおけるボランティア活動」と題して講演。文化センターのギタークラブによる演奏等もあり、参加した人々は今後とも会員の拡充と活動の発展を誓い合った。毎年行っている那須の精薄施設「光星学園」の作品展示即売会も好評で、十万円以上の売り上げがあるなど、記念行事は大きな成果をおさめた。

教皇様訪日答礼

巡礼団に参加して

和野邦義



二月二十二日、昨年の教皇訪日のお礼として組織された我々答礼巡礼団は白柳大司教様を団長とし、フアチマ、ルルド、アッシジと巡礼を続けた後、A、B両コース全員がローマで合流しました。仙台からは私を含めて四人参加しました。二十三日早朝、法王庁の特別の配慮で聖ペトロ大聖堂の大祭壇でミサを捧げ、バチカン市国を見学させていただきました。この日は、教皇様はまだアフリカ訪問からお帰りになっていませんでしたが、白柳大司教様の願いを受け入れ、同日夕方帰国し、たらずくに謁見して下さるようになりました。我々は一たん宿舎に帰り、大聖堂で待機後、宮殿に案内され、お待ちしました。この立派な部屋は故・土井大司教様がカルデナルに任命された儀式の行われた所であることを知らされてびっくりしました。一時間半ほど待つて、昨年東京でお会いした時と同じく純白の法王衣を召され、お入りになられるとすぐ慈父の優しい笑みを以って、前列の子供達、老人、病人に握手をなされ、子供の頭をなでられ感激の極みでした。席につかれ、立派な日本語で語りかけ、答礼の巡礼の労をねぎらい、ご自分にするこの巡礼に対し、ありがとうと申され感泣しました。そして今日から始まる四旬節を良く祈り、神様のお恵みの内に復活の喜びを得るようにさとされ、聖母マリアに

よく祈るようにと、全員に祝別されたロザリオを下さり、優しい微笑を以って握手され、祝別して下さり部屋を出ていかれました。白柳大司教様は、巡礼中常に、祈りと巡礼に来た事を忘れないようにと説教され、毎日ミサを捧げつつ、我々を導かれました。昨年に続いて再び元気な教皇様にお会い出来、このようならずばらしい教皇様をお与え下さった神様に心から感謝し、感激のうちに帰国しました。

「キリストの平和を

家庭の中に実現しよう」

一四ツ家教会の年間目標をきまる

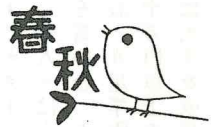
仙台教区の司牧目標が発表されて早や三か月、それぞれの教会でより具体的な実施案が考えられている。盛岡の四ツ家教会では、司教の年頭書簡を受けて2月7日教会委員会で、今年の目標と毎月の具体案を次の様にきめた。

● 今年の年間目標

「キリストの平和を家庭の中に実現しよう」

● 毎月の具体案

- 3月 聖書を読み、家庭としての話題にする。
- 4月 他人のために祈る。
- 5月 家庭をあげて奉仕する。
- 6月 教会の行事に参加する。
- 7月 とりのりに心よくあいさつする。
- 8月 家庭内で相手の立場を理解する。
- 9月 一日一善(人のために)。
- 10月 一日一犠牲(人にささげる)。
- 11月 お互いに信頼する。
- 12月 相手、他人に関心をもつ。



今年のはじめ、ヨハネ・パウロ二世にみる「トップに立つ人の条件」の記事をカトリック新聞でみた。

春秋

「教皇の指導者としての言葉は教皇ご自身が指導者としてのコミットメントを毎日の生活の中に実践しておられてのみ初めて可能なものである。哲学、神学の勉強から得られる豊富な知識がその発言を生んだのではない。一すぐれた指導者になるには、まず、優秀な配下であることを学ばなければならない。」(カトリック新聞 一月三十一日)

記事を読みながら、ある修道女のことを思い出した。ノビスであった時、会憲の頁をめぐっていたら総長の項があった。彼女は、会の運営、管理等のために尽くすのが総長の役割で、その才能のある人が総長になるものと考えていた。ところが、総長の第一の役割は神と一致することである。驚いた、という。以来、彼女は身に余る役割を命じられた時、あの総長の項を思い出し、神と一致するよう招かれたものと受けとめ、引き受けているとことである。

一つの修道会の総長が神との一致を第一のものとするならば、全教会の責任を持つ教皇はますます深い神との一致に招かれているのではなかるうか。

ヨハネ・パウロ二世が神のその招きに応えていることを、彼の祈る姿の中に見るのは筆者ひとりであろうか。

(狼河原)

奉託石のべえじ

司教様と私の洗礼

田中耕蔵(鮫教会)

昨年11月23日のことです。佐藤司教様が、教会の小西さんのお誘いに応じられ、非公式に鮫教会にお立ち寄りになりました。有志でささやかな夕食会を開いたのですが、席上、司教様はババ様来日の裏話としてローマに呼ばれ、日本でメッセージの手直しやババ様に日本語の特訓をされた話を淡々と話されました。私は、今まで経験したことのないような感動を受けました。それは、司教様がババ様の事を私達に良く知ってもらいたいという気持ちがあふれていたからだと思います。日本のカトリック史上前代未聞の大イベントに直接タッチしていながら、何の気負いも、誇張も自負もなくこのように話される事は、我々の生活している場ではあり得ないからです。

宴がたけなわになり、信者が用意したカラオケが始まりました。次々と歌が出て司教様も合唱されていました。途中で一人でマイクを握られましたので、「司教様何をお歌いになりますか」とたずねますと、「皆さんのよく知っている歌ですよ」と言われ歌われたのはなんと、テレビの時代劇「水戸黄門」のテーマソングだったのです。全員一瞬声が出なかつたのですが、次の瞬間大きな拍手と笑い声、私は親しみやすい司教様の人間性を感じ、

前にも増して感動しました。すでに三年前に公教要理は終えておりましたが、まだ未信者だった私が受洗の決心をしたのはそれから間もなくの事です。司教様が来られてわずか一か月後の昨年のクリスマススイブのミサで、小西さんに代父をお願いし、渡辺昭一神父様から洗礼を受けることができました。

私にとって司教様は現代の水戸黄門であり葵の御紋ならぬ、十字架の御紋に引き寄せられた記念すべき一夜でした。

菓立ちの時

鈴木裕子(元寺小路教会)

推薦入学の願書を何気なく出して合格したという幸運に感謝もせず、「仙台なんかに行きたくない。教師になんかなりたくない」と不満を並べるだけでずるずると仙台に来てしまい、そこから私の大学生活が始まりました。

この春から幸運にも教師として働く場が与えられました。教師にはなりたくないと思っていたはずなのに、今は教師になることを真剣に考えています。「本当に私に勤まるだろうか」と不安なことはたくさんありますが、それ以上に今は教師として子供とかかわっていきたいと思っています。

音楽を勉強したいというだけで大学に入ったのに、私がこの四年間の大学生活で学んだ事は、専門的な知識以上に人間関係の大切さ

「神は真実な方ですから、あなた方を耐えることのできないような試験に合わせることはありません」とのコリント前書の聖句に力づけられて、与えられた場所で精一杯やっていきたいと思っています。

お知らせ

- ◎ 黙想会のご案内
 - ・ 主題：聖書で祈る
 - ・ 指導：沢田和夫師(東京教区)
 - ・ 日時：5月1日(出)夜から
5月3日(月)まで
 - ・ 会場：聖ドミニコ会
宮城町生活寮
 - ・ 会費：5千円(20人まで)
 - ・ 主催：思想庵(☎980
仙台市連坊小路355
渡辺清方
TEL 0222-91-3579)
- ◎ 春の後藤寿庵祭
 - ・ 日時：5月30日(日)
午前9時30分
 - ・ 場所：岩手県水沢市福原
寿庵廟前
 - ・ 主催：水沢カトリック教会
- ◎ 移動信徒連絡事務所変更のお知らせ
 - ・ 横浜教区の担当者上原功宏
神父の住所が下記に変更
します。☎211 川崎市
幸区下平間143
鹿島田カトリック教会
TEL 044-522-0066
(平賀徹夫)
- ◎ 女性(26歳まで)の黙想会
 - ・ 期日：5月2日午後2時
～3日午後5時まで
 - ・ 指導：笹気直哉神父
 - ・ 会費：1500円(締切4月26日)
 - 詳細は、主催の女子パウロ会
まで。TEL 0222-23-8639

おらが教会

(18)

青森

五所川原教会



五所川原教会は、津軽半島の突端、小泊から秋田県境までを小教区とする広い地域です。この小教区には、佗(わび)寂(さび)で知られる十三湖、岩崎には、日本キャニオンのある十二湖、太宰治の生家、斜陽館のある金木町、車力村には、ミサイル基地があります。小泊から岩崎までの日本海沿岸のながめは、とても素晴らしいものです。

五所川原教会が産ぶ声をあげたのは、昭和28年のこと。ケベック外国宣教会のフォルテン神父(昨年カナダで帰天)が弘前教会から五所川原の津鉄本社の一階に住み、弘前大学の片山教授や須郷三史さんが求道者として教理研究を始めたのが、そもその最初です。

昭和30年、五所川原市にとつても初めてである幼稚園がケベック会によって開園、日曜ミサは幼稚園の一室で捧げられました。フォルテン神父は木造町や近くの町村の布教に力を尽くし、いつか教会建設をと夢見ていました。

昭和32年弘前教会の助任デロシエ神父が、五所川原教会の主任として週二回、幼稚園に

宿泊しながら司牧を始めたのです。昭和34年待望の司祭館が完成。昭和38年に幼稚園の増築とともに聖堂も建築。聖堂完成は信者にとって大きな喜びでした。ステンドグラスに似た美しい彩色の窓、「十字架の道行」はデロシエ神父の妹さんによる寄贈で、美術的なものです。この聖堂建設の財源のほとんどは、ケベック外国宣教会の援助によるものでした。

昭和38年には、聖母被昇天修道女会の修道院が開設され、英語、ピアノ教授、幼稚園、土曜学校の指導など、教会発展のため大いに働いてくれました。しかし残念ながら十年の後修道院は閉院。当時は市内を修道女が通ると物珍しそりに振り返る人も多かったのです。

昭和39年から二代目主任フォーレ神父が着任。小教区内の町村を軒並に訪問してカトリック教会を紹介。夏には幼稚園のバスに乗って小泊、木造、鯉ヶ沢、深浦などを訪問して歩いたのも思い出の一つです。

その頃はレジオ・マリエも盛んで、高校生のつどいにも多くの参加者があり活発でした。

昭和46年、三代目の現主任ランドルヴィル神父が着任。温厚な人柄で町の人達と親交を深めています。

教会活動の一つとして、毎年5月の聖母月

1982・年間目標

家庭から社会に
キリストの平和を
(仙台司教区)

と10月のロザリオの月には、司祭が各家庭を訪問、祈りと家族との親睦の時を過ごします。また、月一回、「聖書に親しむつどい」があり、昨年からはヨハネ・パウロ二世の回勅「いつくしみ深い神」の勉強会と話し合いが始まりました。年中行事の秋の遠足は、皆が楽しみにしていることの一つです。

この教会の悩みは、教会に来る信者の少ないこと。名簿上では72人ですが、教会に来る人は約半数。毎週の主日のミサに出席する人は四分の一位です。この教会の特徴は、老人と青年のいない壮年男女と子供の教会といえるでしょう。青年がいないのは、高校を卒業すると大部分が進学、就職のため市外、県外に出て行くため。

子供達のためには土曜学校があり、80人位が聖書の話と書道のために集まります。

ランドルヴィル神父は今年司祭叙階二十五周年をむかえます。この町に住み11年。町内会や町の行事にも積極的に参加して、人々との交わりを大切にしています。この機会に、心一つにして、主任司祭と共にこの地にキリストの愛を、一人でも多くの人々に福音の喜びを告げ知らせることができるよう、願っています。(斎藤 記)

♪♪♪

仙台司教区事務所だより第54号
昭和57年4月1日発行
発行所 仙台司教区事務所
980仙台市本町一丁目2番12号
TEL 0222 22 7371